



NO.124

Tribology Girl's Power

—科学する女性たちは、いま—

## 尹海蓮さん

ヒーハイト(株)  
生産技術部 製品グループ

# 顧客のニーズを理解して 自動車レース部品を開発

## 製品開発と生産調整で活躍

私は、直動機器と精密部品の開発や製造、販売を行っているヒーハイトで、生産技術部に所属しています。

高校生のころから日本の文化に興味があり、大学で応用物理学を専攻しながら独学で日本語を学び、日本語能力試験で5段階あるうちの2番目の難易度となるN2資格を取得しました。就職先を選ぶ際には日系企業に絞って応募しました。当社を希望した理由は、中国で子会社を立ち上げる予定があったからで、自分の語学力で活躍できると思ったからです。

入社後は、中国子会社の立上げを支援しつつ、品質保証室に3年間在籍しました。その後、技術部へ異動してリニアブシュの設計に携わりました。そして現在は、生産技術部に在籍し、自動車レース部品を担当しています。

技術部に移ってから、製品に関するマーケティングを行い、動向を理解した上で独自の機能を盛り込みたいと考えました。材料選定から製造工程の確立、性能評価などを行い、顧客の要望に応えられる仕様を確立し、特許も登録しました。

また、レース部品の仕事がきっかけになり、レースを観戦することが一つの楽しみになりました。自分が手掛けた製品がレースを走る自動車のエンジンの中で働き、競争している。その自動車がレースで優勝したときには仕事の達成感を得て、レース後に顧客から感謝の言葉をいただいたときには、仕事にやりがいを感じ、次の努力のための原動力になりました。

製品開発に臨む上で心掛けているのは、顧客のニーズをより深く理解し、的を射た提案をして信頼を得られるよう努力することです。今は、製品開発と並行して製品を安定して供

給できるように社内外と生産調整をしながら、各工程の突発的なトラブルへの対応、顧客の調査依頼などの業務も行っていきます。生産調整などの担当者になったときは、直接顧客や協力工場と交渉することが心配で、コミュニケーション力と知識が不足している私が担当していいのか、とても不安でした。しかし、上司や先輩社員の方々などに教えてもらいながら少しずつ良い仕事ができるようになってきています。

## 思考力を鍛えて視野を広げる

私がこれまでに携わったリニアブシュとレース部品は、トライボロジーに関する様々な現象が絡み合う分野の製品です。リニアブシュは転がり抵抗が関係し、レース用エンジン部品は初期なじみや摺動速度、面性状、潤滑、温度などの要素が複雑に絡み合います。そのため、入社してからは転がりとすべりの両方のトライボロジーに翻弄された11年間でした。さらに今の業務では、金属加工を中心に、金属材料、表面処理、熱処理などにも関わっているため、さらに複雑な業務内容になってきています。

これまでは上司の指示で行うことが多かったですが、今の目標は自分で考案した製品を顧客に採用してもらうことです。そのため日々いろいろなことに興味を持ち新しい知識を取得することが必須で、さらには自力で考えられるよう思考力を鍛え、視野を広げることが大事だと感じています。

仕事をする上で一番うれしいのは、誰かに必要とされることです。これからも現状に満足せず、成長し続けて、もっと頼りがいのある人になることで、会社に貢献していきます。